

古文書学習会の検地帳

常任理事 山田貴和（さいたま市）

ここ一年程、大宮郷土史研究会は学習会に天正から文禄期の検地帳を用いている。これを機に幾つかの検地帳原本を眼にすることができた。

その一つである天正二十年大宮之村検地帳は、伊奈忠次の手代衆により行われた検地帳で、耕作者と分付人が記されている分付検地帳である。実際に目にした文書は、当然ではあるが翻刻され活字となった資料とは全く異なる姿をみせる。料紙は、あまり厚い紙ではない楮紙のようである。文字様は、余り丁寧に書かれた様には見えない。書き込みが多く、これが読みにくい。墨色は、本文と加筆文字が違ふ。加筆文字も墨色が異なる。墨色が異なるのは加筆が行われ、文字様が異なり墨色も異なるのは加筆した時代と人物が異なるのであろう。この文書には、検地に当たった伊奈氏手代衆の名前が記されているが、それ以外の者の名前が無い。形式的にも整っていない感がある。

閲覧することができた検地帳の中に、時代は下るが享保期の新田検地帳があった。先の天正期の検地帳とは異なり、良質の紙に、流麗な御家流の文字が並び、加筆は無い。加筆に代り付箋が付けられている。原本の記載事項とその後の変更事項を区別しているためと見られる。更なる変更の可能性をも慮っているのかもしれない。検地役人のみならず棹取役、村役人、そして勘定奉行の名と黒印がある。袋とじには割り印がされ、その整った形は公文書そのものである。時代が異なるとは云うものの両者の違いは歴然である。重要に扱われていたのが判る。付箋が剥がれて添付された位地が不明のものもあり、惜しい感じがする。

このように見ると天正期の検地帳とされた文書は、原本ではなく「写し」と見られる。この写しと思われる文書を更に写した文書もあり、これに更に書き込みがあり「手控え」のようである。古文書を見ていくと素人ながら発見と想像の楽しさが感じられる。楽しくなる。

この天正期の文書は一部で正式な検地帳として扱われている。表書が「検地帳」となっていることによるのか、他に検地史料が存在しないためか。確かに天正期の検地を把握し、土地支配を見る唯一の史料となっているためかもしれない。

写しと見られる文書でも、その時代の貴重な史料ではある。文書を史料として扱う難しさかと思う。まあ、いつの世も公文書とて作意が働き、完全に実態を表しているもので無いことは同じではある。史料論はなどと角を立てる必要もない。

それにしても、皆熱心である。読むだけでなく、関連資料を集め、集計分析をしている。更には、150年程後の絵図を探して元禄期検地帳の耕地を所在の同定までしている。

参加させてもらってはいるが古文書を勉強していない我が身の悲しさ、肝心の文字が読めない。「・・・」。どうも資料をにらんでいる時間が長い。

会報「JUNO」は7月と12月の発行が中止となります。ご了承ください（次頁参照）。

今回の友の会理事サポーター会議：7月7日（日）10時より

今後のイベントスケジュール

* 申込は『JUNO』に応募要項が掲載されてからお願いします。

ホームページ: <http://junosaitama.net/> ブログ: <http://hakutomobulog.at.webry.info/>

- 6月22日 (土) 古道探索倶楽部「第29回古道を訪ねて 日光道中その 2」 <前号で紹介>
- 7月7日 (日) 講演会「詳説「とっとり弥生の王国」」 <今号で紹介>
- 7月12日 (金) まち歩き研究会「県立文書館と現代美術館めぐり」 <今号で紹介>
- 7月30日 (火) プレミアム講座「地獄極楽めぐりの美術」 <今号で紹介>
- 9月7日 (土) 古道探索倶楽部「第30回古道を訪ねて 日光道中その 3」 <次号で紹介>

講演会「戦勝祈願にみる戦国大名の宗教観」

令和元年(2019年)5月25日に開催 126名が参加

戦国の世にあつては、戦争と宗教は切っても切れない関係にあつたという。戦争に係わる兵士たちの心理からは勿論のこと、大名一人の力ではではどうにもならない運や天に左右される勝敗の行方の上からも宗教は必要であつた。だから戦いに赴く戦国大名は例外なく戦勝を神仏に祈願をしている。現代社会においても多くの人々が望みを叶える為に神仏にすがることが多いが、心の問題として宗教にかかわらざるを得ないとい点では現代人も戦国大名もまったく同じであつたようである。今回は戦国大名の一般論とは少し角度を変えて、彼らの戦勝祈願を通して、心の内なる宗教観を神田千里先生にお話しいただいた。講演の内容は概ね以下のようなものであつた。

- I. 宗教的行為としての戦争 (①戦場に携行するお守り ②加護を期待する軍旗—神明・法語— ③軍配者—占筮に通じた人—が軍師を務める ④戦場の呪術=吉日・良辰の選択 ④呪術による攻撃)
- II. 戦勝祈願にみる神仏観 (1) 神仏の味方が最重要なもの (①信玄の籤へのこだわり ②毛利元就の日月信仰・巖島信仰 ③吉川元春の国の神への信仰) (2) 正義の勝利 (①上杉謙信の願文 ②北条氏康の戦勝祈願)
- III. 織田信長の神仏信仰 (①「無神論者」的信長像 ②織田信長の宗教的行為) あの織田信長でさえ、桶狭間の戦いに赴くに際しても熱田神宮で戦勝祈願を行っているという。また、i. 武田を滅ぼしたときの大覚寺、多賀神社、仁和寺、青蓮院、上賀茂社、醍醐寺理性院に対する巻数の礼状 ii. 伊勢・八幡に対する熱心な信仰 iii. 「長篠合戦図屏風」にみる法華題目の軍旗からも信長を無神論者としてみるのは怪しい。信長といえども他の戦国大名と変わらない。神仏を大事にしている。
(齊藤亨 記)

友の会総会を開催

令和元年(2019年)5月25日

見学会事業と会報発行事業が見直されました。「JUNO」の7月と12月の発行は中止となります。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会の2019年度通常総会を5月25日に博物館講堂で開催しました。例年通り、2018年度事業報告・決算報告と監査報告を承認し、2019年度の事業計画と予算を審議し、原案通り決定しました。現役役員の高齢化などで新しい役員の加入が大きな課題として説明されました。事業については、特に、負担の大きい「バス見学会」の開催数縮小と「会報 JUNO」の発行回数減少(年10回)が決まりました。この総会で承認された昨年度の収支報告と新年度の予算計画を5～6ページに掲載いたしました。

クラブ活動 (募集案内)

◆ 県立文書館と近代美術館めぐり ◆

2019年(令和元年)7月12日(金)に「まち歩き研究会(新企画)」

- <<日時>>2019年(令和元年)7月12日(金) 10時00分～14時00分頃
- <<集合>>JR京浜東北線 浦和駅中央改札口前 午前10時 集合 雨天開催
- <<費用>>交通費各自 保険と参加費用:300円 <<持物等>>飲物・お弁当など持参
- <<概要・行程>>博物館・郷土資料館などをまわる新企画。見学だけでなく、施設の概要や利用の仕方などをうかがい、会報やブログに掲載する予定です。内容のまとめに協力いただける方の参加をお願いします。今回の行程は、浦和駅⇒県立文書館(企画展:埼玉の“ふみくら”開催中)⇒中山道など(徒歩)⇒北浦和公園(昼食・休憩)⇒県立近代美術館(入館料:200円)⇒最後に今度の予定などを相談後、北浦和駅で解散
- <<申込・問合せ>>①なるべく「ホームページ」の「申込フォーム」より送信フォームをお願いします。
②Eメール(筑井): pu8n-tki@asahi-net.or.jp ③FAX: 048-470-2758 も可

地獄極楽めぐりの美術

～ 冥途の風景探訪 ～

特別展「東国の地獄極楽」と関連の講演会で紹介され、記憶に新しい地獄極楽をめぐる美術には、まだ十分に伺っていないお話しがたくさん残されています。本年度最初のプレミアム講座では、盂蘭盆会や施餓鬼会などに関する美術についても紹介していただきます。お盆の季節にご先祖様の思い描いた冥途の風景をちょっと覗いてみませんか？

講師の西川さんは、日本美術史(仏教美術史)がご専門。最近の特別展「東国の地獄極楽」で活躍され、今年度も引き続き展示担当として常設展示の第3、4、6室と「国宝太刀・短刀」の実施、運用を担当されます。

講師 西川 真理子 氏 当館学芸員

とき 2019年7月30日(火) 13:30～14:30
(開場 13:00)

ところ 当館講堂

ご参加無料

申込方法: 通常ハガキに、開催日、イベント名・住所・氏名・電話番号・会員番号を明記。

締切: 7月23日までに、下記の宛先へ必着でお願いします。

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

返信はいたしません。お申込みいただければ、ご参加いただけます。会員限定ですが、ご家族、お友達にご参加いただけます。*「友の会ホームページ」の「申込フォーム」からも参加申し込みできます。(返信はいたしません)

詳説「とっとり弥生の王国」

～「地下の弥生博物館」^{あおやかみじち}青谷上寺地遺跡と「甦る弥生の国邑」^{むきばんた}妻木晩田遺跡を中心に～

山陰地方東部に位置する鳥取県には、弥生時代史を紐解く上で重要な遺跡が数多くあります。中でも、鳥取市青谷町の「青谷上寺地遺跡」と、米子市と西伯郡大山町にまたがる「妻木晩田遺跡」は、弥生時代を代表する遺跡として、共に国の史跡に指定されています。青谷上寺地遺跡では、弥生人の脳や精巧な木製品など、通常の遺跡では朽ちて残らないような有機質遺物も多数出土していることから、「地下の弥生博物館」と呼ばれています。また妻木晩田遺跡は、国内最大級の弥生時代の集落遺跡で、復元された竪穴住居跡や高床倉庫など、弥生のムラの風景を体感できます。

鳥取県では、この両遺跡をはじめとした県内の弥生遺跡を貴重な歴史文化遺産として活用し、「とっとり弥生の王国」として、新たな価値を創造・発信する試みを続けているところです。これまでも、弥生時代の歴史や文化を学び、史跡の楽しみ方を追求する「とっとり弥生の王国シンポジウム」などの様々な情報発信事業を通して、多くの方々に山陰鳥取の魅力を再発見していただいています。

この度は、普段埼玉では体感することの難しい「いにしへの山陰」の姿について、最新の調査成果等も織り交ぜながらご紹介しつつ、皆さんを「とっとり弥生の王国」へいざないたいと思います。

講師

水村直人 氏

[鳥取県地域振興部文化財課歴史遺産室 文化財主事 (埼玉県出身)]

日時 2019年(令和元年) 7月7日(日) 午後1時半～3時
(開場:午後1時)

場所 当館講堂

東武アーバンパークライン(東武野田線)
大宮公園駅下車徒歩5分

参加費用 300円

当日は返信はがきをお持ち下さい。
(Web申込の場合は登録番号のプリント)

ご参加のお申し込みは、**往復はがき**に イベント名・住所・氏名・電話番号・会員の方は会員番号を明記、返信面にも住所・氏名を記入の上、下記宛先まで。

【〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会】

締切:2019年6月30日(日) 定員(150名)を超えた場合はお断りすることもあります。

*「友の会ホームページ」の「申し込みフォーム」からも応募できます。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

平成30年度収支報告書

自 平成30年4月 1日

至 平成31年3月31日

収入の部				
項目	予算高	決算高	予算比	備考
前期繰越金	715,680		(単位千円)	
年会費	1,060,000	1,054,000	▽ 6	資料—I
半年会費	30,000	16,000	▽14	
事業収入	1,925,000	1,749,600	▽175	資料—II
雑収入	1,000	2,410	14	
小計(ア)	3,016,000	2,822,010	▽193	
合計	3,731,680	3,537,690		
支出の部				
項目	予算高	決算高		備考
運営費関連				
会議費	150,000	141,544		
旅費交通費	90,000	97,116		
備品・用品	130,000	128,244		
通信	650,000	666,762		
印刷	5,000	1,202		
交際費	10,000			
手数料他	1,000			
小計(イ)	1,036,000	1,034,868	▽ 1	
事業費関連				
講演会	300,000	323,125	23	資料—II
見学会	1,450,000	1,184,481	▽265	資料—II
イベント				
クラブ活動	30,000	30,000		
小計(ウ)	1,780,000	1,537,606	▽242	
観覧券購入金(エ)	200,000	217,000	17	資料—III
積立金	200,000	200,000		
予備費	515,680	548,216		
合計(オ)	3,731,680	3,537,690		
次期繰越高(カ)	715,680	748,216	32	
仮受金(キ)		914,000		資料—IV
期中収支	収入2,822,010-支出2,789,474=32,536			
	(ア)	(イ+ウ+エ)		

資金管理明細	
(30年3月31日現在)	
郵貯銀預金	1,457,371
振替口座残高	204,845
現金	
未収金	
合計	1,662,216

(カ+キ)

上記の通り平成30年度収支についてご報告いたします。

平成31年3月31日

会計代表 中村均
小林都子 滝沢由美子



上記報告書について、出納簿、領収書、収支決算書を厳正に会計監査を実施した結果過誤なく適正に執行された事を証します。

監事

斉藤 亨



監事

金子 榮



収入の部			
項目	予算高	2018年実績	記 事
前期繰越金	748,216	715,680	
年会費	1,000,000	1,054,000	更新432名 今期入会68名
半年会費	20,000	16,000	下期より 20名
事業収入	850,000	1,749,600	見学会6.5千円×100名 講演会300円×700
雑収入	1,000	2,410	
小 計	1,871,000	2,822,010	
合 計	2,619,216	3,537,690	
支出の部			
項目	予算高		記 事
運営費関連			
会議費	180,000	141,544	安全保険料 年度 800円×42名
旅費交通費	100,000	97,116	受付担当補助 100日分
備品・用品	130,000	128,244	
通信	550,000	666,762	会報送付メール便・理事、サポーター間連絡費
印刷	5,000	1,202	
交際費	10,000		
手数料			
小 計	975,000	1,034,868	
事業費関連			
講演会	250,000	323,125	
見学会	550,000	1,184,481	
クラブ活動	50,000	30,000	
小 計	850,000	1,537,606	
観覧券購入費	200,000	217,000	展示場入館観覧券の負担金
(運営費・事業費合計)	2,025,000	2,789,474	
積立金	200,000	200,000	
予備費	394,216	548,216	
合 計(イ)	2,619,216	3,808,647	
			当期収支=-154,000
次期繰越高	594,216	748,216	
支出は項目間の流用を認めるものとする			